

輸出事業計画

※申請者名：ブランドおおいた輸出促進協議会畜産部会、品目：牛肉

1. 輸出における現状と課題

【現状】～大分県畜産公社を中心とした大分県産牛肉輸出の取組～

ブランドおおいた輸出促進協議会畜産部会は、生産者、食肉処理施設、輸出事業者等で構成され、大分県産畜産物の海外輸出に向けた海外市場調査や展示会への出展、輸出先国における販売促進活動等により輸出拡大を図っています。

牛肉輸出については、大分県内唯一の牛肉食肉処理施設である、大分県畜産公社が、これまでに11の国・地域の牛肉輸出施設認定を取得しており、主に、台湾や香港等のアジア地域や米国に輸出しています。特に、米国向けは、令和2年に発効された日米貿易協定締結に伴う低関税枠の拡大もあり、大きく伸びています。

また、令和4年度には、スベックカットを求められる輸出需要の拡大に伴い、部分肉製造工程への負担が増加しているため、生産能力向上のための機器整備等を行いました。

ここ数年は、輸出需要は高い状況が続いており、今後も需要が旺盛な海外マーケットを獲得していくためには、関係者が連携・情報共有を図り、輸出の拡大に向けた取組を進めていく必要があります。

【生産】～旺盛な需要に応えるための生産基盤の強化～

今後も拡大が見込まれる需要に対応するためには、肥育牛の増頭を図る必要があります。

また、牛を快適な環境下で飼養することでストレスを低減する等、動物福祉に配慮した飼養管理は、生産性の向上につながる取組のため、より一層進めていく必要があります。

【食肉処理施設】～ニーズに対応した動物福祉に配慮した食肉処理～

輸出先国が求める頭絡による家畜の取扱い等、動物福祉に配慮した食肉処理をさらに進める必要があります。

【流通・販売】～ロイン系以外の需要創出～

海外では、ステーキ部位として人気が高いサーロインやヒレに需要が集中していますが、日本ではウデやバラ等も、その特徴を生かした様々な料理方法によって美味しい料理となって提供されています。

日本の食文化や日本食の普及とともに、ロイン系以外の需要創出を図る必要があります。

2. 輸出事業計画の取組内容

(1) 旺盛な輸出需要に応えるための生産基盤強化

- 畜産クラスター事業等の活用や大分県畜産公社を主体とする預託牛制度、県外企業等の誘致・受け入れ、遊休牛舎の利活用により肥育牛の増頭に取り組みます。
- キャトルステーションの建築、担い手の就農支援により、肥育素牛の生産基盤強化に取り組みます。
- 動物福祉に配慮した飼養管理をより一層進めます。

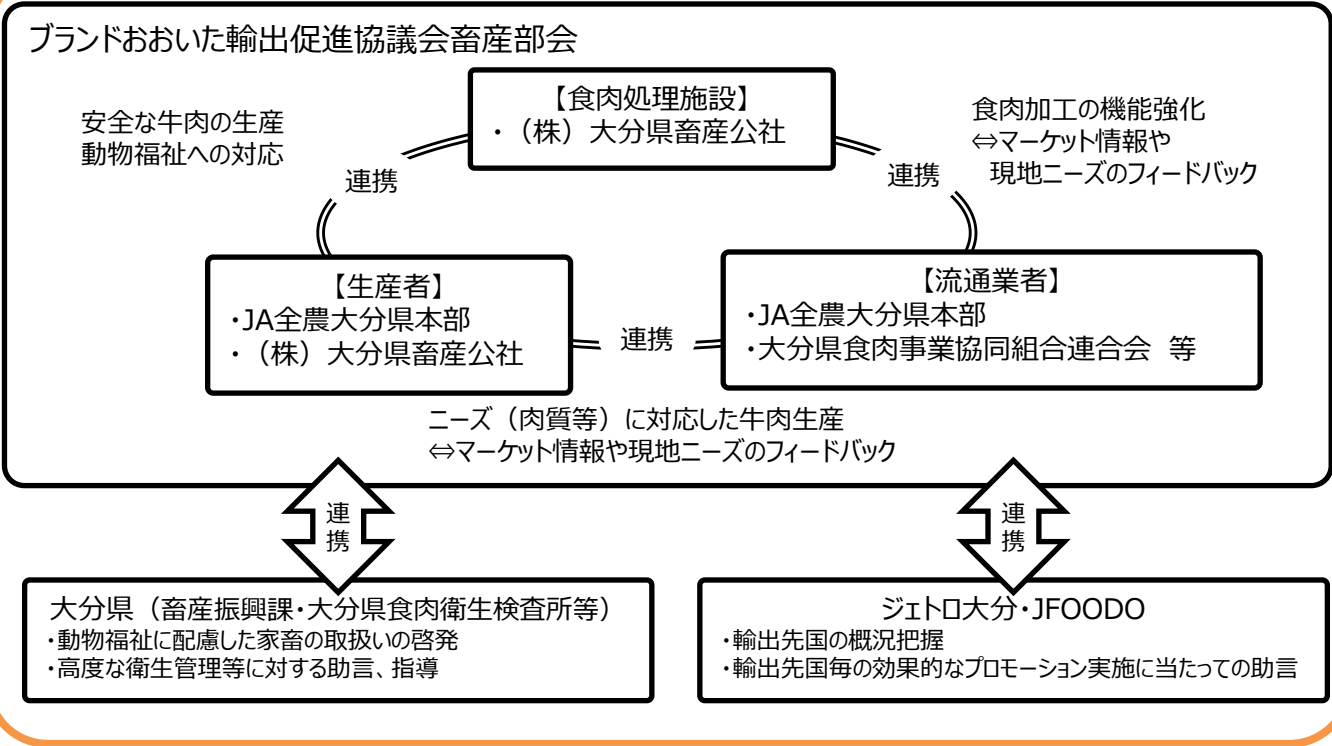
(2) 輸出先国のニーズに対応した動物福祉に配慮した食肉処理～

- 輸出先国が求める頭絡による家畜の取扱い等の動物福祉に配慮した食肉処理に取り組みます。

(3) ロイン系以外の需要創出

- 輸出の需要が低い部位については、現地輸入事業者等と連携し、カットング指導や部位毎の特徴、メニュー、料理方法を周知するための試食会等を実施し、需要の創出を図ります。
- 現地事業者等との関係強化や「おおいた和牛」の理解醸成を図るため、産地招へい（生産農場や食肉処理施設等の視察）を実施します。
- 大分県の観光素材や牛肉以外の農林水産物と一体となったプロモーションを実施する等、効果的な販促活動を行うことで、販路の拡大を図ります。
- ジェットロ等とも連携し、今後も大分県産牛肉の浸透が見込める地域において、新たな販路を開拓していきます。

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



4. 輸出目標額

	現状(令和4年度)	目標(令和6年度)
輸出額(千円)	423,693千円	679,500千円
輸出量(トン)	64.7トン	104.5トン
輸出先国・地域	米国・香港・台湾 タイ・マカオ・シンガポール 等	米国・香港・台湾 タイ・マカオ・シンガポール 等